



# 東京としけん交通だより

～これからのくらしと交通を考える～

## 特集 “東京都市圏のこれからの交通” を考える

### 「東京都市圏交通計画協議会 第3回シンポジウム」特集

本号は、去る2月23日(水)に開催いたしました、「東京都市圏交通計画協議会 第3回シンポジウム」の特集です。

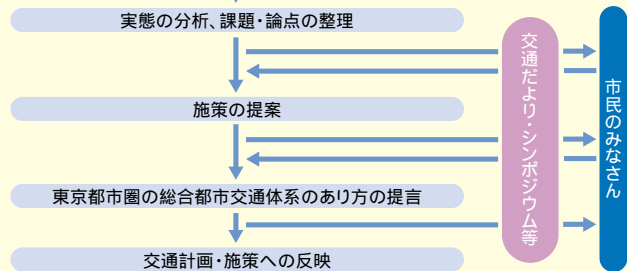
今回のシンポジウムでは、交通問題やまちづくりの有識者をお招きし、「持続可能な交通」、「これからのくらしと交通」について、活発に討議していただきました。

今回のシンポジウムでのご議論を踏まえつつ、今後、施策の提案に向けた検討を行っていく予定です。

なお、前2回のシンポジウムの概要については、協議会のホームページ <http://www.ijnet.or.jp/tokyopt/> に掲載していますので、興味のある方は、あわせてご覧下さい。

東京都市圏の総合都市交通体系調査の流れ  
< 東京都市圏交通計画協議会 >

東京都市圏の交通(人の動き)の実態調査(1998年秋)



今日はとしけん一家のみんなも聞きに来ているようだな





# 持続可能な社会に向けて、総合的な交通まちづくりを



## 基調講演：「持続可能な交通に向けて」

東京大学大学院工学系研究科教授 太田 勝敏氏



### 「持続可能性」の中では、自動車をいかに適切に使っていくかがポイント

私の基調講演としては「持続可能な都市交通」ということをテーマにお話させていただきたいと思います。

まず、「持続可能性」といいますが、これは元々は南北問題での持続可能な開発という文脈の中で出てきた概念でして、現在私たちが享受している自然・環境を次世代に残していきたいという考え方です。これを交通面から捉えようとすると、3つのポイントがあります。

1つは、環境・生態系を損なわないような交通システムの構築です。2つめは、都市交通政策として非常に重要なポイントですが、交通システムが効率的に運営され、安定的・持続的にサービスが市民に提供されるという、経済・財政面からの持続可能性です。3つめは、高齢者や身障者などの移動制約者に公平なモビリティ<sup>\*1</sup>を確保するという社会的な持続可能性です。

これらの問題を考えると、自動車以外の選択肢を残しながらモビリティを高めていくか、また、自動車をいかにうまく飼いや慣らして使っていくかが、これからの交通政策の基本にあるべきだと思います。

### 従来型の需要追従型アプローチから総合的なパッケージアプローチへ

都市活動が活発化し、交通の需要が増大しますと、従来は、増加した需要に対して必要な交通施設を造るという需要追従型のアプローチをしてまいりました。しかしこれは2つの点で難しくなっています。1つは、お金や沿道の問題等により、施設拡大の合意形成が難しくなっています。2つめは、環境制約をおかさずに拡大できるかという問題です。

そこで出てきた新しいアプローチが総合的なパッケージアプローチです。

これは次の3つがセットとなっています。

1つは環状道路等の骨格的な施設等を選択

的に整備することです。

2つめは需要サイドについても環境制約の中に抑えつつ、モビリティを増やしていくこととすることです。3つめは環境制約に関わる社会的費用の内外部化<sup>\*2</sup>と費用負担方法等の問題、すなわち、制度フレームワーク(枠組み)も変えていくということです。

### TDM施策を進めるには

TDM(交通需要マネジメント)<sup>\*3</sup>のねらいは、移動量全体を減らす、自動車交通量を削減する、時間的・場所的に交通量を平準化するという3つのねらいがあります。

その3つのねらいに向けて、様々な施策がありますが、重要なのは全体をうまくまとめあげることです。TDMは確かに需要サイドからアプローチしますが、それをサポートする骨格道路や魅力的な公共交通の整備等の供給サイドの施策と一体となっていることが必要です。さらに、需要を発生している個人・企業、関連交通事業者、行政等が実際の行動を通して連携していくことが大変重要になります。

TDMにより、私たち個々自身が車の使い方・ライフスタイルを見直し、持続性を高める方向に変えていくことと同時に、みんなで協働して、安心して住みつけられるまちづくりを進めていくことが重要だと思います。



## パネルディスカッション：「これからの暮らしと交通」

### 確実に訪れる高齢化へ対応した交通サービスを

兵藤氏：これからの暮らしと交通を考える上での問題提起として、確実に迎える高齢化の中で、今までの高齢者とは違う交通行動を前提とした交通体系を考える必要があると考えます。

吉田氏：世代によって、随分、自動車利用に対する意識に差があるように感じられますし、そういうところも踏まえておく必要があるのではないのでしょうか。

兵藤氏：公共交通の面から考えますと、高齢化に対応しつつ、駅までなどの短距離の移動をサポートする改善が必要だと考えられますね。

吉田氏：高齢者だけでなく、身障者の方々も含めて、自立した移動を支援するようなきめ細かな公共交通サービスを充実する必要があると思います。

これからは、わたしたち高齢者の暮らしを支えるような交通サービスがますます重要になってくるんですね。



### 多様化する暮らしに応じた新しい公共交通サービスへの取り組みを

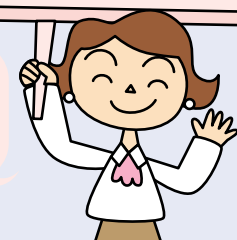
太田雅文氏：鉄道サービス面からは東京都市圏の生活の質はまだ低く考えられます。これからは、混雑緩和だけではなく、所要時間・乗り換えなど多様化する公共交通サービスへのニーズに対応し、選択性を高めることが必要だと考えています。

吉田氏：市民が公共交通を使う気になるような料金・サービス等の工夫も必要ではないのでしょうか。

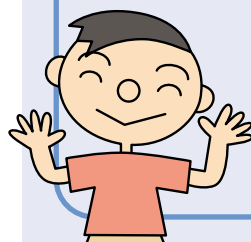
兵藤氏：今まで以上に快適性の追求というニーズが交通サービスの中に求められるようになるのではないのでしょうか。その場合に、事業者・利用者からだけでなく、快適性について、企業が商品として開発するような仕組みが必要だと考えます。

太田雅文氏：例えば、地域との共生という視点からも、マルチモーダル<sup>\*4</sup>な交通機関に使えるカードみたいなものがないか考えていくことも重要だと思います。

私たちの暮らしの場面に応じた新しいサービスが工夫されれば、公共交通がより使いやすくなるわね。



- コーディネーター  
太田勝敏氏(東京大学大学院教授)
- パネリスト  
兵藤哲朗氏(東京商船大学助教授)  
太田雅文氏(東京急行電鉄株式会社交通事業部管理部企画課長)  
吉田洋子氏(都市計画・まちづくりファシリテーター・宅地開発研究所技術本部技術営業部長)  
堀田憲司氏(神奈川新聞社論説委員)



### 既存のネットワークを活用し効率的な整備の工夫を

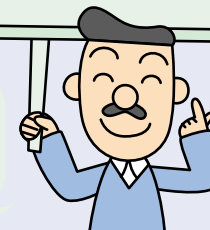
太田雅文氏：最近出されました運政審<sup>\*5</sup>の答申等をみていますと、鉄道の整備にあたって、既存の路線を活用してネットワークの効率性を高めていく方向にあるのかなと認識しています。

堀田氏：道路についても、現状では整備が進んでいませんが、渋滞の問題、生活環境の問題、排気ガス等の環境の問題の改善に向けて、既存の道路間をネットワーク化するような骨格的な環状道路整備が必要ですね。

会場から：環状道路等の新たな道路整備により、自動車交通を誘発してしまうことは考えられないのでしょうか。

太田勝敏氏：都市の中に大量の通過交通が流れ込んで、渋滞や環境の問題をひきおこしますから、その解決に資する環状道路整備は重要です。また、防災などのために、都市の公共空間を形成するという意味でも重要だと考えます。

今あるものをうまく活かして、効率的・効果的に整備をしていくことが重要なんだな。



### これからの交通まちづくりの展開に向けて市民・行政・事業者の連携を

兵藤氏：今後、情報化の進展やNPO<sup>\*6</sup>組織の台頭の中で、市民と行政との関わり方も変化していくと考えられます。

吉田氏：交通や地域の問題について、市民と行政とが一緒に考えることで、太田先生の基調講演に出てきた「持続可能な社会」に変えていけるのではないのでしょうか。

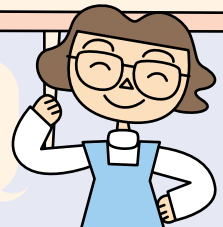
太田雅文氏：鉄道事業者としてのサービス改善の第一は、お客様のニーズは何かということ把握し、企業戦略を立てるということです。また、今後、鉄道が民間事業なのか、都市の基本的な施設なのかという議論や社会的な費用対効果<sup>\*7</sup>を踏まえた投資の優先順位等の議論も重要です。

堀田氏：鉄道だけでなく、これまで事業者の参入・撤退を規制していた需給調整を撤廃するという規制緩和の影響が非常に大きいバスについても、市民や地域のニーズを受けとめる必要があります。短距離移動のサービスや乗り継ぎの改善などを進めるとともに、地域ごとに、まちづくりとバスサービスということを協議できるような場も必要だと思います。

会場から：住民参加、高齢化、規制緩和等の流れの中で、市民・交通事業者・行政との関わり方も変わって来ると感じています。

兵藤氏：公的な計画をサポートするなどの中で、NPOがうまく市民・行政・事業者間のメカニズムの組み替えを行えるのではないかと期待しています。

私たちの暮らしに深く関わっている交通とまちづくりの問題について、私たち自身も一緒に考えていくことが必要なのね。



裏面には専門的な用語の解説をつけています。

裏面に続く

# パネルディスカッション:「これからのくらしと交通」

中面からの続き

## その他の会場とのディスカッション

### 道路整備とTDMの関係

会場から:道路整備とTDMとの関係は、道路等が整備されているから導入できるという面と逆に道路整備が十分でないがゆえに導入されるという面の2つの関係があるのではないのでしょうか。

太田勝敏氏:TDMは施設がある段階・ない段階で手法は異なりますが、それぞれの整備レベルが必要だと考えています。重要なことは、地域の目標像達成にふさわしい手段としてのTDMを選択していくことだと思います。

### 環境問題の視点も重要

会場から:川崎、尼崎の道路公害判決等をもて、行政の枠をこえて、沿道環境・住民等にも十分に配慮した施策を展開することが重要ではないでしょうか。

太田勝敏氏:重要な課題だと思います。今回の中では十分に議論できませんでしたが、計画の段階から都市計画との関連を含めて総合的に検討していくことが必要だと考えています。

### 自転車の役割の変化は

会場から:自動車との兼ね合い、歩行者との兼ね合い、駅前の放置自転車の問題等、これからの交通システムからみた自転車の役割とはどのようなもののでしょうか。

太田雅文氏:放置自転車の問題は鉄道事業者と都市政策との連携で解決すべき問題だと考えます。

太田勝敏氏:自転車についても、公共交通への持ち込みやレンタサイクルシステム等、都市交通の中での総合的な位置づけを検討することが重要だと考えます。

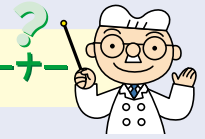
## まとめにかえて:市民の参加を促していく仕組みを:太田勝敏氏

パーソントリップ調査のそもそもの意義も含めて、交通手段間、あるいは、土地利用と交通とを総合的に見るという視点が、まず重要です。

分権化の流れの中で、くらしに関わる最低限の交通サービスをだれがどう行うのかを市民の意見を聞きながら決めるのは自治体の重要な役割だと思います。

さらには、市民の参加を促していく仕組みを作っていくことも重要です。

## 用語の解説コーナー



### 1 モビリティ

人が社会活動のために交通(空間的移動)をする能力のことをいいます。交通手段や交通環境による、居住地を自由に選択移動する能力も含まれます。

### 2 社会的費用の内外部化

サービスや利益を享受している人が、交通渋滞や大気汚染など周りの人々に与える費用を応分に負担することをいいます。

### 3 TDM(交通需要マネジメント)

Transportation Demand Managementの頭文字をとって、TDMといいます。自動車利用者などの交通行動の変更を促すことにより、都市・地域レベルでの交通渋滞を緩和する手法の体系です。なお、TDMは、交通混雑の緩和だけでなく、地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出などの環境負荷の抑制等にも効果があるため、今後一層の推進が期待されています。

### 4 マルチモーダル交通システム

タクシー、バス、地下鉄、鉄道などの各種の公共交通手段や道路(有料道路、駐車場)、航空など異なる交通機関から構成される交通体系のことをいいます。

### 5 運政審(運輸政策審議会の略)

鉄道計画等の運輸政策について審議する運輸大臣の諮問機関です。今年1月に東京圏における鉄道網計画の基本となる「東京圏の高速鉄道を中心とする交通網の整備について」の答申が出されました。

### 6 NPO

Nonprofit Organization の略で、非営利法人、及び市民活動やボランティア活動などをする人々が結成する民間非営利団体のことをいいます。

### 7 費用対効果

交通整備等による効果を投資の費用との関係で捉えることをいいます。

番号は本号中面の文章中の番号と対応しています。

## 「東京都市圏交通計画協議会」とは……

わたしたち「東京都市圏交通計画協議会」は、日本ではじめて複数の都県市関係機関がお互いに協力・調整しあって、広域的な交通問題に関する調査・研究を行う組織として、1968年(昭和43年)に発足し(当時は東京都市圏交通計画委員会)、30年以上にわたって活動してきました。

## 次号の予定

ニューズレター Vol.6  
(5月発行予定)

<特集テーマ>

“交通に関する意識調査結果”  
～道路交通編～

## 問い合わせ先

建設省  
関東地方建設局  
企画部  
広域計画調査課  
TEL 048-600-1330  
FAX 048-600-1373

茨城県  
土木部  
都市局都市計画課  
TEL 029-301-4583  
FAX 029-301-4599

埼玉県  
住宅都市部  
都市計画課  
TEL 048-830-5343  
FAX 048-830-4881

千葉県  
都市部都市政策課  
都市政策室  
TEL 043-223-3166  
FAX 043-225-4012

東京都  
都市計画局  
施設計画部交通企画課  
TEL 03-5388-3283  
FAX 03-5388-1354

神奈川県  
県土整備部  
都市計画課交通企画班  
TEL 045-210-6182  
FAX 045-210-8879

横浜市  
企画局企画調整部  
総合交通計画課  
TEL 045-671-4086  
FAX 045-662-7362

川崎市  
まちづくり局計画部  
交通計画課  
TEL 044-200-2034  
FAX 044-211-7353

千葉市  
都市局都市部  
都市計画課  
TEL 043-245-5306  
FAX 043-245-5627

都市基盤  
整備公社  
都市整備部  
事業計画課  
TEL 03-3263-8392  
FAX 03-3263-8188

日本道路公社  
東京建設局  
建設第一部企画調査課  
TEL 03-5418-2001  
FAX 03-5418-2050

首都高速道路公社  
計画部 調査課  
TEL 03-3539-9408  
FAX 03-3502-2412

ご意見・ご感想をお寄せください。

東京都市圏交通計画協議会 ホームページアドレス <http://www.ijjnet.or.jp/tokyopt/>

